

携帯端末で上下水道遠隔管理

小松電機産業（松江市乃木福富町）が開発した、市町村の上下水道施設をパソコンやiPad（アイパッド）、携帯電話で遠隔管理するシステム「やくも水神」の導入が自治体で進んでいる。役場に設置した大がかりな中央監視装置や水源地、水門などを結ぶ専用線などの施設が不要となるため、財政難にあえぐ中で強い味方になっている。

（藤井満）

財政難自治体に朗報

小松電機産業開発

多くの市町村で採り入れているシステムは、上下水道や井戸の水位などの異常を検知すると、専用線を通して役場にある中央監視装置に知らせる。それを役場職員が確認して現場に出向いている。10～15年前に導入され、多くは更新時期を迎えているが、億単位の資金が必要だという。

同社は2000年、水源地やポ



低コスト、導入進む

ンプなどに携帯電話の電波で異常や故障などの情報を知らせる装置を設置。データを同社のサーバーに集めて、情報は役場職員がパソコンで確認できる「やくも水神」を売り出した。03年には災害に備えて、データを蓄積するサーバーを東京にも設けた。

今年10月からは、手元にパソコンがない出先でもiPadなどの携帯端末で施設の状況を確認できるシステムを導入する。

同社によると、「やくも水神」の導入コストは、役場に中央監視装置や専用線などを設置した場合と比べて3分の1から半分になるという。7月1日現在、全国38都府県190市町村の4800施設で導入されて普及率は11%。県内は21市町村のうち15市町で採り入れているという。

同社の担当者は「職員の手元の端末で管理できるため災害にも強い。人口10万人以下の自治体を中心に普及させて、3年後には普及率3割を目指したい」と話している。

携帯端末で、各地の上下水道施設の遠隔管理が出来る＝松江市乃木福富町